



部長先生インタビュー

慶應義塾大学医学部整形外科 中村 雅也教授

—— **同門会員で女性会員数は何名でしょうか？**

同窓会員 1112 名中 44 名（4%）が女性医師で、プログラム専攻医 92 名中 14 名（15%）が女性医師です。近年では女性医師が入局者の 20%を超える学年もあります。

—— **貴教室のホームページでは、研修コースが丁寧に示されていますが、産休・育休・介護休暇などで中断せざるを得ない場合も、この研修コースに速やかに戻ることは可能でしょうか？**

コースの設定としては、速やかな復職が可能です。実際の復職に当たっては、ご家庭の状況に応じて、個別に相談しながら対応しています。ご家庭の事情ですぐには完全な復職ができない場合も、将来に向けてキャリアがつながるような働き方を提案しています。実際 2022 年には、専攻医プログラム中の 4 年間に 2 児の出産を経験した女性も、特にプログラム期間を延長することなく専門医資格を取得しました。

—— **初期研修期間中メンター制度（指導医が、研修医の相談役を務める）のようなものはありますか？**

各研修施設に 1 人ずつ、中堅医師をメンターに任命し、対応しています。年に 2 回、関連施設のメンターが集まって「メンター会議」を開催し、問題点を共有し対応を協議しています。

—— **専門領域を決めるにあたっては、本人の希望はどの程度考慮されるのでしょうか？**

専門医取得後の専門領域は上肢、下肢、脊椎脊髄、腫瘍の 4 つの臨床班から選択してもらいます。慣例により、第 1 希望から第 3 希望まで聴取していますが、近年は若手医師の motivation を第 1 に考え、ほぼ全員に第 1 希望の領域へ進んでいただいています。

—— **地域的に遠方への赴任も多いのではないかと推測されますが、育児・介護などの家庭的な状況も考慮されるのでしょうか？**

我々の教室の関連病院は関東から東海地区に広域に分布しており、各施設の特徴や強みを考慮しつつ、公平性を担保しながら、医局員を派遣することは重要だと考えています。その中で、育児・介護などの家庭的な事情により遠方への赴任が厳しい医師に対しては、事情を確り聞いたうえで、可能な限り配慮して赴任先を決定しています。

—— **専門性を追求するにあたり、短期・中期の国内留学のような研修制度はありますか？**

教室内のルールに基づき、1-2 年間を目安とした国内・海外留学制度を設け推奨しています。本制度により、留学に対する資金的な援助も行っています。

—— **育休・介護休などで、長期休職後の臨床への復帰にあたり、支援体制はつくっておられるのでしょうか？**

教室として、復職する医師と個別に面談し、個々の置かれている状況を最大限考慮して、復職先の病院とも復職の時期や働き方に関する相談をしながら進めています。復職先の病院においては、チームとして復職した医師を支援して頂けるようお願いしています。

—— **最後に医学生・研修医の先生・女性医師への応援メッセージをお願いいたします。**

私たちの教室のモットーは、“Passion、Vision、Action”です。医師として、整形外科医として、一人でも多くの患者さんにより良い医療を届けたいとの思いが Passion であり、そのために 10 年後のあるべき自分自身の姿を確り思い描くことが Vision です。その Vision に向かって、いま何をすべきかが Action です。皆さん、思い思いの Vision（夢）を持って、整形外科に飛び込んできて下さい。

女性医師には、ライフコースにおける様々なイベントがあります。そのためにキャリアを諦めざるを得ない状況がこれまでありました。しかし、いまは皆さんの希望や思いに寄り添える環境（働き方を含み）を整えています。皆さんの Vision（夢）を一緒に実現していきましょう。